

# 令和4年度

# 町政執行方針(要旨)



3月2日、棚野町長が令和4年第1回町議会定例会で町政執行方針を述べました。

## はじめに

一昨年、国内ではじめて感染が確認された新型コロナウイルスは、その後、新たな変異株への置き換わりが進むなど、予断を許さない状況が続いており、国民の暮らしと経済活動へさまざまな影響を及ぼしています。

町民の皆さま、事業者の皆さまには、これまでと異なる日常生活と物流の効率化を図るため、国道38号を補完する町道振内線については、本年度中の事業完了に向けて整備を進めていきます。

白糠駅前広場整備事業は、白糠駅舎と町営バスターミナルの合築による交通拠点づくりや、駅前を中心とした賑わい創出と防災機能を持たせた複合施設の基本設計業務に着手していきます。

消防体制の整備は、消防救急デジタル無線設備ならびに水槽付き消防ポンプ自動車の更新を図るとともに、白糠消防団第2・第3分団詰所の改築整備について、引き続き検討を進めていきます。

防災体制の整備は、国および北海道が日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震による津波浸水想定と被害想定を公表したことから「命を守ること」「逃げるが勝ち」「より早く、より高く、遠いところへ」避難するといった基本的な避難対策のさらなる普及・啓発に努めるとともに、特に被害が大きいと想定される冬季節、夜間における防災対策に取り組んでいきます。

また、北海道が新たに指定する中小河川の洪水浸水想定区域を基本に、洪水ハザードマップを作成

により、大変な苦勞と心配をされている中で「新しい生活様式」の実践などにご理解とご協力をいただき、改めて感謝を申し上げます。コロナ禍を契機とした人々の意識と行動の変化から、地方が持つ気候風土や暮らしの環境が再認識され、「ひと・しごと」の流れが都市部から地方へと進んでいく中、デジタル化や脱炭素化といった社会変革をもたらす動きが本格化しています。

国においては、新型コロナウイルスとの闘いに打ち勝ち、経済を再生させるため、成長と分配の両面から経済を動かし、好循環を生み出すことで持続可能な経済をつくり上げることが掲げられています。

私は、地域経済を支える第一次産業を再興し、振興していくことを何よりも重要なことと捉え、今日まで取り組んできたまちづくりは、着実に前進しているものと考

し、防災意識の向上に努めていきます。

防災基盤の整備は、さまざまな自然災害に対する町民の皆さまの安全・安心を確保するため、海岸保全や河川整備などの事業推進に向け、関係機関に対する要請活動に努めていきます。

国道38号恋問館付近から町道釧路空港短絡線に連結する避難路については、大津波発生時に恋問館の利用者や、国道の通行者が一刻も早く高台に避難することができるよう、早期の整備実現に向けて関係機関との協議を継続していきます。



冬季間の避難行動を検証し、防災・減災につなげていきます。

本年度も、社会情勢の状況を見極めながら、本町の創生を図るため、「第一次産業の再興と振興」をはじめとする「3つの柱」をまちづくりの中心に据え、総合的な施策による人口減少対策や防災・減災対策、脱炭素化などにしっかりと対応すべく、これまで培った経験や人的ネットワークを最大限に生かし、将来に向かって希望あるまちづくりに努めます。

## 本年度の町政執行の基本的な考え方について

町民の皆さまと行政が、まちづくりを進めていくための共通目標である「第8次白糠町総合計画」と「第2期白糠町創生総合戦略」による取り組みを進め、「生き活きしらぬか笑顔輝くまちを目指して」をまちづくりのテーマとして、各種施策を推進していきます。

また、現在懸念されている地域経済の回復に向けては、状況の変化に即応しつつ、町民皆さまの安心な暮らしと雇用・経済を守り抜くために、必要な対策を躊躇なく講じていきます。

行政のデジタル化については、昨年9月にデジタル庁が発足し、行政のデジタル化に向けた取り組みが加速する中、地方自治体における情報システムの標準化・共通化や、行政手続きのオンライン化への準備を進めるとともに、住民サービスの向上と業務の効率化を図っていきます。

- ① 国道・道道の整備促進要請
- ② 町道の整備促進
- ③ 橋梁長寿命化修繕計画の推進
- ④ 農道・林道の整備
- ⑤ 海岸保全・河川の整備促進要請
- ⑥ 地域公共交通ネットワークの確保・維持
- ⑦ 白糠駅前広場整備事業の推進
- ⑧ 公営住宅等長寿命化計画の推進
- ⑨ 交通安全思想の普及啓発
- ⑩ 消防・防災体制の充実強化の推進

⑪ デジタル社会の実現に向けた取組の推進

## 本年度推進施策の概要について

### 1 機能的で魅力ある基盤づくり

道路整備については、国道274号標茶上茶路間のうち、釧路市阿寒町布伏内から本町二股までの17・7kmが未開通区間となっていることから、優先的に進められる北海道横断自動車道阿寒・釧路西間の事業完了を見通しつつ、関係機関に対する要請活動を継続していきます。

また、地域住民の利便性の向上

### 2 美しく快適な環境づくり

世界的な気候変動をはじめとした環境問題に対し、国においては、2050年までに温室効果ガスの排出量を全体としてゼロにする、カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指すことを宣言しました。本町においても、森林・川・海の豊かな自然環境をしっかりと守り、後世に引き継いでいくため、二酸化炭素排出量の実質ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ」の宣言の下、脱炭素社会の実現に向けた取り組みを進めていきます。

水道事業は、浄水場の大規模な整備が完了したことから、今後は配水管に重点を置き、計画的な整備・更新を進め、安全で安心した水の供給に努めていきます。

茶路簡易水道事業は、北海道主体で実施する道営水利施設等保全高度化事業により、取水施設の改築を進めていきます。

下水道事業は、将来にわたって安定的な経営を維持するため、地方公営企業法を適用した公営企業会計への移行に向けた取り組みを継続して進めていきます。



3回目の新型コロナウイルスのワクチン接種が始まりました。18～64歳までの集団接種は4月2日から実施します。